

地域のニーズが 変化するのが 見ながら対応する

被災地で復興支援に取り組む
NPO等の活動を紹介します。

Revival spirit 復興 スピリット

第1回

釜石市災害支援 ボランティアセンター (釜石市)



釜石市災害支援センター 佐々木さん

復興の状況により、被災地でのニーズは刻一刻と変わる。それに合わせて、ボランティア活動の内容も変化する。釜石市の災害支援ボランティアセンターで、活動における苦心談を聞いた。

釜石市災害支援ボランティアセンター 受付

ゼロからの出発

釜石市でボランティア活動に参加した人は、9月初旬までに2万7千人を超えた。現在も毎日、全国からボランティアが来ており、つい先日、個人ボランティアの方たちで結成された「チーム023」の方々と関東方面の個人ボランティア有志6名が、鶴住居地区のガレキの撤去と倉庫の整理をした。

「釜石市災害支援ボランティアセンターが立ち上がったのは、震災から2、3日後、混乱のさなかでした。初期の段階では、ボランティアの受け入れ体制ができていなかったため、市内のボランティアだけを受け入れました。」センターで活動している佐々木英之さんは語る。「少ないスタッフで運営していました。こちらから何もお渡しできないままの状態、ボランティアの皆さんに活動に入っていたらという形でした。」

被災者のニーズを探りながら

被災された方自身が、何をどこまで頼んでいいのかわからないほど大変な状況だった。そのような中でも、地域の方々の要望を探り出しながら、少しずつ活動に取り組んだ。家財の片づけ、ガレキの撤去や泥出し、仮設住宅への引越しの手伝い、写真の洗浄と整理、青空市の準備と当日の手伝い、草刈り、仮設住宅談話室でのお茶っこサロン開催…。活動は多岐に及んだ。

「当初は、郷土資料館という建物の中だけで、すべてを運営していました。200人くらいの市内の方たちに手伝ってもらいました。仕事としては、シープラザYOUという建物のテントの中に入ってきた支援物資の積み卸し、整理、灯油の配布などでした。避難所のトイレ掃除の依頼にも応じました。」

全国から初動支援が

少ない人数で立ち上がったセンターだが、3月の末には神奈川と山梨のボランティアセンターから10人ほどの運営スタッフが1週間交替で派遣されてきた。中央のネットワーク組織である「災害ボランティア活動支援プロジェクト会議」からもスタッフが応援に駆けつけた。この組織は、2004年の新潟中越地震の後、2005年1月より（社福）中央共同募金会に設置されたものであり、この応援もあって、やっと体制が整ってきた4月下旬からは、市外からのボランティアを受け入れられるようになった。

全国からたくさんの方の応援が

その後も、ボランティアは全国から来てくれている。大阪、京都、奈良などの近畿方面や、九州、沖縄などの遠方から来てくれる方もいる。ボランティアは、平日で150人から200人。土日には岩手県立大学が全国の大学のボランティアをとりまとめてくれるなど、400人近くになることもあるという。

長野県のお寺の副住職でNPO法人の理事長であり、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議から派遣されている宮下俊哉さんは、1週間程度の滞在を数回行い、滞在延べ日数は30日にも及ぶ。「私はボランティアセンターの運営の方を手伝っています。釜石の方のために、少しでも力になればということで、務めさせていただきました。」と活動を振り返る。

ニーズに応えることの難しさ

出てきた要望に対してどう対応しているのか、ボランティアセンターでどうお手伝いができるのかという模索がずっと続く。ボランティアの難しさはこういう点にあるようだ。

ボランティア募集中

釜石市災害支援ボランティアセンターでは、引き続きボランティアを募集しています。地域のニーズの状況によっては人数を制限する場合もありますので、事前のお問い合わせをお願いします。

釜石市災害支援 ボランティアセンター 連絡先

住所：釜石市鈴子町 15-2
シープラザ大型テント隣
TEL：0193-22-2310
FAX：0193-22-4650
※8時30分～16時30分
(月曜日はお休み)
<http://blog.canpan.info/kamaishi-vc/>

なお、活動参加の際には下記の準備を整えてください。

- ①ボランティア活動保険（天災型）への加入
- ※ 地元の社会福祉協議会で事前
に加入してください。
- ②宿泊先の確保
- ※ テントの設置、避難所への宿
泊はできません。

釜石市内の宿泊施設について

◇釜石観光物産協会のホームページ
内で紹介しています。
<http://www16.pjala.or.jp/kamaishi-kanbou/>

「最近の活動は、仮設住宅から一般住宅への引っ越し、仮設から仮設への引っ越しに徐々にシフトしています。ただ、重機での作業のあとでない限りボランティアさんに入ってもらえないようなところもありますから、ある程度重機での作業